

# 世界の妊産婦死亡

国立病院医療センター

我妻 堯

1977年には、生産10万件に対して、348例の妊産婦死亡、あるいは約50万人の死亡があったと推測される。しかし世界全体で妊産婦死亡の統計が得られるのは世界人口の半分についてにすぎない。統計の無い国の方が妊産婦死亡が多いと考えられるので上記の推計は実際より低いものと思われる。世界全体としてはスカンジナビアの4国が最も低い(10万につき4.3)、アフガニスタン、インド、パングラディッシュが最も高い(600~700/10万)、歴史的にはヨーロッパの支配階級の女性達が16~18世紀には出生10万につき2000人死亡、19世紀前半でも14.70人死亡という記録がある。

## 米国の妊産婦死亡(1968-1975)

1975年の妊産婦死亡は白人は600/10万件、黒人は1,100/10万であった。1930年代初めから妊産婦死亡は急激に低下し始め、とくに流産による死亡率が最も急激に低下、これは1947年から1960年代まであまり低下せず、人工中絶が

合法化された後に再び、急激に低下した。死因として妊娠中の死亡は、流産、外妊及び全身合併症によるもので、前二者と後者、及び分娩時異常、産褥の異常の四因子にわけると大体25%づつ均等に分布している。妊娠中の異常合併症の65%は妊娠中毒症、分娩時の異常は出血で内訳は早剝と弛緩出血が最も頻度が高い。産褥期の死亡は羊水栓塞が最高、ついでその他の栓塞となっている。

## 英国の妊産婦死亡(1973-1975)

1973~1975の3年間の母体死亡は10万件に対して11で、1952年以来、最低を記録した。全数は415例、妊娠、出産に直接関係のある死亡の中では「その他全ての原因」によるものが最高で、次が妊娠中毒症、肺栓塞、流産、出血の順である。出血による死亡が少ないのは米国や日本と比較して差異がある。米国と同じく人工中絶を合法化して以来、流産による死亡は著しく減少した。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1977年には、生産10万件に対して、348例の妊産婦死亡、あるいは約50万人の死亡があったと推測される。しかし世界全体で妊産婦死亡の統計が得られるのは世界人口の半分についてにすぎない。統計の無い国の方が妊産婦死亡が多いと考えられるので上記の推計は実際より低いものと思われる。世界全体としてはスカンジナビアの4国が最も低い(10万につき43)、アフガニスタン、インド、バングラディッシュが最も高い(600~700/10万)、歴史的にはヨーロッパの支配階級の女性達が16~18世紀には出生10万につき2000人死亡、19世紀前半でも1470人死亡という記録がある。